

国立国語研究所学術情報リポジトリ

On the meaning of the sentence final particle ja in the Tonami dialect, Toyama prefecture

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2019-03-25 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 井上, 優, INOUE, Masaru メールアドレス: 所属:
URL	https://doi.org/10.15084/00002002

富山県砺波方言の終助詞「ジャ」の意味記述

井上 優

(国立国語研究所)

キーワード

富山県砺波方言, 終助詞 (文末詞), ジャ, 非主体的な認識更新

要 旨

本稿では次の3点について述べる。1) 富山県砺波方言には、判定詞「ジャ」とは文法的性質が異なる終助詞「ジャ」がある。2) 終助詞「ジャ」は「現場の状況や記憶を参照した結果、話し手のそれまでの認識の更新をせまるような結論 p がその場で自然と意識にのぼり、話し手が p という線で認識を更新する必要性を感じている」(非主体的な認識更新) という心的態度を表す。3) 「非主体的な認識更新」という心的態度を聞き手に表明することにより特定の発言態度が暗示されることがある。

関連事項として、終助詞「ジャ」と、「…ガジャ。／…ガヤ。」という形で用いられた文末形式「ガジャ／ガヤ」(のだ)との間に意味的な類似性が認められることについても言及する。

1. はじめに

本稿では、井上(1995a, 1995b, 1995c)に続き、筆者の母方言である富山県砺波方言の終助詞の意味記述をおこなう。今回記述対象とするのは「ジャ」である。(「ジャ」はどちらかというと男性語。若い女性は使わない。)記述は主に筆者の内省にもとづく¹。

終助詞以外については、内容が具体的で、各地方言の文法形式の意味記述に役立つ分析的概念がある程度抽出されていることが多い。例えば、可能形式における「心情可能／能力可能／状況可能」、アスペクト形式における「動きの継続／結果状態の残存／反復／パーフェクト」はそういう概念であり、実際、我々はこれらの概念を用いて、各地方言の可能形式、アスペクト形式の意味を調査したり記述したりしている。

しかるに、終助詞については、各地方言の終助詞の意味記述に役立つ分析的概念といえるものはほとんど抽出されていない。共通語の「よ」「ね」の意味分析において提出された概念の中には重要なものもあるが、方言には「よ」「ね」とは異なるタイプの意味を表す終助詞も少なくない。このような状況にあってもまず必要なのは、終助詞というものの意味記述に役立つ分析的概念の抽出を念頭におきながら、個々の終助詞の意味を母語話者でない人にもわかるような形で記述する作業を蓄積することである。本稿でおこなうのもそのような作業である。

以下では、方言形はカタカナ、共通語形はひらがなで表記する。また、「↑」は文末で上昇することを、「↓」は文末で上昇しない(低くおさえられて発される)ことを表す。

2. 終助詞「-ジャ」の文法的性質

砺波方言には、判定詞（指定辞）の「ジャ」と終助詞の「ジャ」（以下「-ジャ」）がある。（「判定詞」という名称は益岡・田窪1992による。）

名詞及び名詞に準ずる成分につく「ジャ」は判定詞「ジャ」である。判定詞「ジャ」は砺波方言におけるもうひとつの判定詞「ヤ」とおきかえることができる。

- (1) アノ人 今町カ ドッカノ 人ジャワ | (人ヤワ |)。
(（私の見たところでは）あの人は今町かどこかの人だよ |。)
- (2) アリヤ 知ランガジャワ | (知ランガヤワ |)。
(（私の見たところでは）あれは知らないんだよ |。)

これに対し、述語に直接つく「ジャ」は終助詞「-ジャ」である。判定詞ではないから、判定詞「ヤ」でおきかえることはできない。（*はその表現が非文法的であることを表す。）

- (3) （「あの人」を見たところ「今町かどこかの人だ」という判断が自然と生じた）
アノ人 今町カ ドッカノ 人ヤ-ジャ | (*人ヤ-ヤ)²。
(あの人は今町かどこかの人だよ |。(そう考えざるをえない。))
- (4) （「知っているか？」と聞かれ、ちょっと考えた後で「うーん」という表情で）
イヤ、ナン 知ラン-ジャ | (*知ラン-ヤ)。
(いや、知らないよ |。 / いや、知らないや |。)
- (5) (傘を持ってこなかったことを後悔して)
傘 持ッテクルガヤッタ-ジャ | (*持ッテクルガヤッタ-ヤ)。
(傘を持ってくるんだったよ |。)

(共通語の終助詞で「-ジャ」に最も近い意味を表すのは「や」である。ただし、「や」は形容詞型活用の語の基本形にはつくが (e.g. 重いや, よくわかんないや)、それ以外の形式にはつきにくい (e.g. *重かったや, *よくわかんなかったや, *学生だや, *よくわかるや)。その場合、「よ |」で「-ジャ」に近い意味を表すことは可能である。)

終助詞「-ジャ」と判定詞「ジャ」は以下の点でも異なる性質を示す。

1) 判定詞「ジャ」には接続助詞がつけられるが、終助詞「-ジャ」にはつけられない。

- (6) a. タイシタ コト ナイガジャガ (ナイガヤガ), ... [判定詞]
(たいしたことはないんだが)
- b. *タイシタ コト ナイ-ジャガ, ... [終助詞]
(*たいしたことはないよが / *たいしたことはないやが)

2) 判定詞「ジャ/ヤ」には「ワ」などの終助詞がつけられるが、終助詞「-ジャ」は他の終助詞とくみあわせて用いられることはない。

- (7) a. アノ人 今町カ ドッカノ 人ジャワ |。(=1) [判定詞]
(（私の見たところでは）あの人は今町かどこかの人だよ |。)
- b. *アノ人 今町カ ドッカノ 人ヤ-ジャワ。 [終助詞]

- (8) a. アリヤ 知ランガジャワ。(=2) [判定詞]
 ((私の見たところでは) あれは知らないんだよ!。)
 b. *イヤー, ナン 知ラン-ジャワ。[終助詞]

3) 判定詞「ジャ」は疑問詞疑問文では上昇をとまなうことがあるが、終助詞「-ジャ」は疑問詞疑問文でも上昇はともなわない。意味的にも、終助詞「-ジャ」がついた疑問詞疑問文は、ある疑問がその場で自然と意識にのぼったことを表し、純粋な問いかけは表さない。

- (9) アノ人 ドコノ 人ジャ！(人ヤ！)？ [判定詞]
 (あの人はどこの人だ！?) (問いかけ)
 (10) アノ人 ドコノ 人ヤ-ジャ！(*ドコノ 人ヤ-ジャ！)？ [終助詞]
 ((はて、考えてみたら) あの人はどこの人だろう！?) (疑問想起)

このように、終助詞「-ジャ」と判定詞「ジャ」はまったく別の語である。

なお、終助詞「-ジャ」は、平叙文及び(疑問の終助詞のない)疑問詞疑問文において、テンスの対立を有する語の基本形及びタ形につく。テンスの対立のない命令形、依頼形、禁止形、意志勧誘形、「ヨー/ヤロー」(よう/だろう)にはつかない。(テンスの対立を有する「ラシー」(らしい、過去形「ラシカッタ」)、「カモシレン」(かもしれない、過去形「カモシレナンダ」)にはつく。)

- (11) [平叙文]
 重イ-ジャ！。(重いよ！。/重いや！。)
 重カッタ-ジャ！。(重かったよ！。)
 (12) [疑問詞疑問文]
 アレ？ アノ人 誰ヤ-ジャ！？(あれ？ あの人は誰だろう？)
 アレ？ アノ人 誰ヤッタ-ジャ！？(あれ？ あの人は誰だったろう？)
 (13) ハヨ 行ケ(*-ジャ！)。[命令形]
 チョッコ 待ッテ(*-ジャ！)。[依頼形]
 オイ、動クナ(*-ジャ！)。[禁止形]
 ハヨ 行コ(*-ジャ！)。[意志勧誘形]
 (14) 明日コサ 晴レヨ-(*-ジャ！)/晴レルヤロー(*-ジャ！)。
 cf. 明日こそは晴れるだろう(*や！)。
 (15) 明日コサ 晴レルラシー(-ジャ！)。
 (明日こそは 晴れるらしい(よ！)/晴れるらしい(や！)。
 明日コサ 晴レルカモシレン(-ジャ！)。
 (明日こそは 晴れるかもしれない(よ！)/晴れるかもしれない(や！)。

3. 「非主体的な認識更新」の標識としての終助詞「-ジャ」

次に、終助詞「-ジャ」の意味について考える。

結論から言えば、終助詞「-ジャ」が表すのは次のような心的態度である。

(16) 現場の状況や記憶を参照した結果、話し手のそれまでの認識の更新をせまるような結論 p が (話し手の意志とは別に) その場で自然と意識にのぼり、話し手が p という線で認識を更新する必要性を感じている。(以下「非主体的な認識更新」)

つまり、「-ジャ」を用いた発話は、

(17) a. p とは思っていなかったが、見たら (考えてみたら) 正しくは p だ。(新たに p という線で認識を更新する必要がある。)

b. p でないという線も考えたが、見たら (考えてみたら) やはり p だ。(あらためて p という線で認識を更新する必要がある。)

という意味あいの発話になるわけである。

「-ジャ」はひとりごとでも聞き手めあての発話でも用いられるが、いずれの場合も (17) のような意味あいの発話になることにはかわりはない。また、その場で自然と意識にのぼった結論が話し手にとって望ましくない結論の場合は「このように認識したくはないが、このように認識せざるをえない」というニュアンスの発話になり、話し手にとって望ましい結論の場合は「お、さっそくこの線で認識を更新しなければ」というニュアンスの発話になる。これらの点は、以下で見るすべての例についてあてはまる。

以下、具体例を見ていく。(?? はその文の使用が不自然であることを表す。)

話し手が知っていることをそのまま述べる場合は「-ジャ」は使えない。その場で話し手の認識が更新されているわけではないからである。

(18) (「あの子、誰?」という質問に)

a. オラトコノ 娘ジャ (娘ヤ)。(うちの娘だ。)

b. ??オラトコノ 娘ヤ-ジャ↓。(うちの娘だよ↓。)

「オラトコノ 娘ヤ-ジャ」という文が自然に使えるのは、次のように、観察の結果自然と「うちの娘だ」という結論が意識にのぼり、話し手がそれまでの認識を更新する必要性を感じている場合である。

(19) (聞き手が指さした女の子が意外にも自分の娘であることに気づき)

ア、ヨー 見たラ、オラトコノ 娘ヤ-ジャ↓。

(あ、(自分の娘とは思っていなかったが) よく見たら、うちの娘だよ↓。)

(20) (「本当にうちの娘か?」と思って再度よく見たら、やはり自分の娘だった)

ア、ヤッパ オラトコノ 娘ヤ-ジャ↓。

(あ、(自分の娘ではない可能性も考えたが、見たら) やっぱりうちの娘だよ↓。)

話し手の予想どおりに状況が実現されたことを述べる場合も「-ジャ」は使えない。やはり、話し手がそれまでの認識を更新する必要性を感じているわけではないからである。

(21) (料理ができあがった)

a. ヨシ、デキタ。(よし、できた。)

b. ??ヨシ、デキタ-ジャ↓。(??よし、できたよ↓。)

「デキタ-ジャ」が自然に使えるのは、やはり「やってみたら意外に簡単にできた (これまでの認

識をあらためなければ)」という場合である。

(22) (難しいと思っていたことが意外に簡単にできた)

ア, (ヤッテミタラ) デキタ-ジャ↓。(あ, (やってみたら) できたよ↓。)

オイ, (ヤッテミタラ) デキタ-ジャ↓。(おい, (やってみたら) できたよ↓。)

発話時以前から確定している信念をそのまま述べる (例23), あるいは, 話し手が自らの意志で決めた結論を述べる (例24) 場合も「-ジャ」は使えない。いずれのケースも, 話し手の意志とは別にその場で自然と意識にのぼった結論を述べるわけではないからである。(この場合, 当該の事態が既定事項であることを表す「チャ」(井上1995c)を用いるのが自然。)

(23) («この豆腐, 賞味期限すぎてるけど大丈夫?」と聞かれ, 豆腐の状態を見もせずに, 「大丈夫だ(そうに決まっている)」という信念を述べる)

a. ドモナイ-チャ↓。食べレッ-チャ↓。

(大丈夫だよ↓。食べられるよ↓。(そうに決まってるじゃないか。))

b. ??ドモナイ-ジャ↓。食べレッ-ジャ↓。

(24) (いろいろ考えた末, 「しかたがない」という気持ちで意志をかためる)

a. ナラ, オラ 行ク-チャ↓。

(じゃ, ぼくが行くよ↓。(こうするよりほかない。))

b. ??ナラ, オラ 行ク-ジャ↓。

「ドモナイ-ジャ。食べレッ-ジャ。」「オラ 行ク-ジャ。」と言えるのは, 観察の結果自然と「大丈夫だ。食べられる。」という結論が意識にのぼった, あるいは, それまで示されなかった新しい条件を示されて自然と「行く」気になった場合である³。

(25) («この豆腐, 賞味期限すぎてるけど大丈夫?」と聞かれたので, 豆腐のにおいをかいだところ, 「大丈夫だ」という感触をえた)

ア, ナン ドモナイ-ジャ↓。食べレッ-ジャ↓。

(あ, (においをかいでみたら) 大丈夫だよ↓。食べられるよ↓。)

(26) (それまで示されなかった条件を示されて気がかわった)

ソンナラ, オラ 行ク-ジャ↓。/ア, ヤッパ オラ 行ク-ジャ↓。

(それなら, ぼくが行くよ↓。/あ, やっぱりぼくが行くよ↓。)

次の例でも, 「-ジャ」がある場合とない場合とでは意味が異なる。

(27) (荷物がたくさん入ったカバンを持って)

a. ア, ケッコー 重イ。(あ, けっこう重い。)

b. ア, ケッコー 重イ-ジャ↓。

(あ, (そんなに重いとは思わなかったが, 持ってみたら) けっこう重いよ↓/重いや↓。)

(28) (スープの味見をして, 塩を入れるのを忘れていたことに気づいた)

a. ア, 塩 入レルガ 忘レトッタ。(あ, 塩を入れるのを忘れてた。)

b. ア, 塩 入レルガ 忘レトッタ-ジャ↓。

(あ, (今まで気づかなかったが, 考えてみたら) 塩を入れるのを忘れてたよ↓。)

(29) (今にも物が落ちそうな状態にあるのを見て)

a. ア、落ちル！(あ、落ちる！)

b. ア、落ちル-ジャ！。

(あ、(これまで落ちるとは思っていなかったが、この様子だと)落ちるよ！。)

これらの例で、終助詞を用いないaは、知覚したり思い出したりしたことがらをそのまま反射的に述べるだけの文である。一方、「-ジャ」を用いたbは、見たり考えたりした結果自然と意識にのぼった結論を述べる文である。したがって、

(30) (鍋のふたをもって)

アツイ！(熱い！)

のように、形容詞文が感動詞的に用いられる状況(その場で感知したことがらを反射的に述べる典型的なケース)では「-ジャ」は使えない。「熱イ-ジャ」が自然なのは、

(31) ア、(持ッテミタラ)熱イ-ジャ！。(あ、(持ってみたら)熱いよ！/熱いや！。)

のように、観察の結果自然と「熱い」という結論が意識にのぼった場合である。

「ガヤ」(のだ)に「-ジャ」がついた文も解釈が限定される。例えば、

(32) 寝トランガヤ-ジャ！。(寝てないんだよ！。)

は、

(33) (あの様子だと、きっとあの人は)寝てないんだよ！。(そう解釈せざるをえない。)

のように、観察の結果自然と意識にのぼった実情解釈を述べるという意味にしかならず、

(34) (実は私は)寝てないんだよ！。

のように、既知の実情を告白するという意味にはならない。実情の告白は話し手の認識の更新ともなわないからである。

「ガヤツタ」(のだった)は「-ジャ」と相性がよい表現である。「ガヤツタ」は、話しことばにおける「のだった」と同様、「(今から考えれば)あの時はこうすべきであった」、「(よく考えたら)実情はこうなのであった」という意味の表現であり、それ自体に認識の更新という意味を含んでいる。「-ジャ」と相性がよいのもそのためである。

(35) (傘を持ってこなかったことを後悔して)

傘 持ッテクルガヤツタ-ジャ！。(=5)

((今から考えれば)傘を持ってくるんだったよ！。(認識をあらためねば。))

(36) (傘を家においてきたことを思い出して)

ソーイヤ、傘 家ニ オイテキタガヤツタ-ジャ！。

(そういえば、傘は家においてきたんだったよ！。(認識をあらためねば。))

2. で述べたように、「-ジャ」は疑問詞疑問文で用いることができる。そして、「-ジャ」を用いた疑問詞疑問文は、それまで意識していなかった疑問がその場で自然に意識にのぼったことを表し、純粋な問いかけは表さない。やはり、話し手の中で「こういうことを疑問に思わざるをえない」という結論におちついたことが「-ジャ」によって表されるのである。

(37) アノ人 ドコノ 人ヤ-ジャ！？ (=10)

((はて、考えてみたら) あの人はどこの人だろう！?)

4. 「-ジャ」と「じゃん」

終助詞「-ジャ」は「ではないか(じゃないか)」(例文中では「じゃないか」で代表させる)に由来する「じゃん」と形が似ているが、少なくとも砺波方言の「-ジャ」は「じゃん」とは関係がない。「ジャン」という形の終助詞の意味・用法は方言によって多少異なるようだが、以下でとりあげるのは東京の「じゃん」である。

1) 判定詞の否定形「ではない(じゃない)」にあたる砺波方言の形式は「デナイ」(あるいは「ンナイ)」であり、「*ジャンイ」ではない。よって、「ではないか」から「-ジャ」が生じたとは考えにくい。

(38) ソコデナイ (ソコンナイ)。(そこではない(そこじゃない)。)

2) 判定詞を内に含む「ではないか(じゃないか)」は判定詞にはつかないが、「じゃん」も同じように判定詞にはつかない。一方、「-ジャ」は判定詞につく。このことは、「じゃん」は判定詞的な要素を内に含むが「-ジャ」はそうではないことを示唆している。

(39) a. 今日は休みじゃないか。/*今日は休みだじゃないか。

b. 今日、休みじゃん！。/*今日、休みだじゃん！。

c. 今日 休ミヤ-ジャ！。(今日は休みだよ！。) cf. 今日 休ミジャ。[判定詞]

(40) a. ないじゃないか。/*ないんだじゃないか。

b. ないじゃん！。/*ないんだじゃん！。

c. ナイガヤ-ジャ！。((この様子からするときと) ないんだよ！。) cf. (32)

3) 「ではないか(じゃないか)」及び「じゃん」は、田野村(1990)のいう第一類の否定疑問文(発見した事態を驚きなどの感情を込めて表現したり、あることがらを認識するよう相手に求めたりする否定疑問文)を構成する。しかるに、砺波方言において第一類の否定疑問文を構成するのは「ナイケ(ナイカ)」であり、「-ジャ」ではない⁴。例えば、聞き手にあることがらを思い出すよう求める場合、「ではないか(じゃないか)」「じゃん」及び「ナイケ(ナイカ)」は使えるが、「-ジャ」は使えない。

(41) (聞き手に井上のことを思い出させようとして)

a. ホラ、高校ノ時ニ 井上ユーテ オッタナイケ！(オッタナイカ！)。

(ほら、高校の時に井上ってのが いたじゃないか！/いたじゃん！)

b. ??ホラ、高校ノ時ニ 井上ユーテ オッタ-ジャ！。

(??ほら、高校の時に井上ってのがいたよ！)

「-ジャ」が使えるとすれば、やはり話し手自身が記憶を参照し、その結果「井上というのがいた」ということが自然と思い出された場合である。

(42) ソーイヤ、高校ノ時ニ 井上ユーテ オッタ-ジャ！。

((よく考えてみたら) そういえば、高校の時に井上ってのがいたよ！。(うん、確かにそうだ。))

(43) は予想外の事態を発見した時の発話であるが、やはり「-ジャ」と「じゃん」「ナイケ(ナ

イカ)」とでは意味が異なる。

(43) (最初見た時はおいしくなさそうに見えたが、食べてみたらけっこうおいしかった)

a. ア、ケッコー ンマイナイケ！ (ンマイナイカ！)。

(あ、けっこう うまいじゃないか／うまいじゃん。)

b. ア、ケッコー ンマイ-ジャ！。(あ、けっこううまいや！。)

「じゃん」「ナイケ (ナイカ)」を用いた (43a) は、「これまでの認識は完全に誤っていた」として、認識を根本から構築しなおしているという意味あいの文である。一方、「-ジャ」を用いた (43b) は、「食べてみた結果、予想とは逆の結論が自然と意識にのぼった」というだけであり、認識を根本から構築しなおしているというニュアンスはない。

5. 「-ジャ」の使用による発言態度の暗示

以上見てきたように、終助詞「-ジャ」は、「現場の状況や記憶を参照した結果、話し手のそれまでの認識の更新をせまるような結論 p が自然と意識にのぼり、話し手が p という線で認識を更新する必要性を感じている」ことを表す。本節では、このような心的態度を聞き手に表明することにより暗示される発言態度について述べる。

例えば、「-ジャ」を含む発話はしばしば次のようなニュアンスを含む。

(44) 単刀直入には言いにくいのだが、自分はこの場では p と認識せざるをえない。

あなたは p と考えたことはないかもしれないが、自分はこの場では p と認識せざるをえない。

つまり、聞き手が何の抵抗もなく受け入れるとは考えにくいことがらを「聞き手はともかく自分はこの場では p と認識せざるをえない」という形で述べ、「聞き手も p という線で考え直す必要がある」ということをほのめかすわけである。

(45) (聞き手の「社会の窓」が開いているのに気づいて、少し言いにくそうに)

・アンタ、チャック アイトル-ジャ！。(あなた、チャックがあいているよ！。)

(46) (「あなたはすぐには信じないかもしれないが」という気持ちで)

〇〇サン、アンタノ コト 好キヤ ユートッタ-ジャ！。

(〇〇さん、あなたのことが好きだっていったよ！。)

「-ジャ」はまた、

(47) あなたにもいろいろ事情はあるだろうが、自分はこの場では p と認識せざるをえない。という発言態度を暗示することも多い。「聞き手の事情がどうであれ、自分としてはやはりこのような結論におちつかざるをえない」というわけである。

(48) アンタ、モー チョッコ シッカリセンナアカン-ジャ！。

(いろいろ事情もあるだろうが) あなた、もう少ししっかりしなきゃだめだよ！。)

(49) (聞き手をせかして)

ホラ、井上サン 待ッテヤ-ジャ！。

((あなたはせかしてほしくないだろうが) 井上さんが待っておられるよ！。)

さらに、「-ジャ」を用いた発話は、

(50) 自分としてはこの場ではこう判断せざるをえないのだが、あなたの方ではどうか?
という意味あいでも用いられることも多い。聞き手の前であらためて認識を更新してみせて、聞き手にも再考をうながすわけである。

(51) (古くなったのですてるつもりでいた牛乳を聞き手が飲もうとしているのを見て)
アンタ、ソレ チョッコ 古イ-ジャ↓。

(あなた、それちょっと古いけど。(自分の認識ではそうなのだが、どう?))

(52) ビール 飲ミタイガナラ コーテ クッ-ジャ↓。

(ビールを飲みたいのなら買ってくるけど。(自分はその気だけど、どうする?))

このように、「-ジャ」は具体的な文脈の中でさまざまなニュアンスで用いられるが、いずれもつまるところは、「現場の状況や記憶を参照した結果、話し手のそれまでの認識の更新をせまるような結論がその場で自然と意識にのぼり、話し手がその線で認識を更新する必要性を感じている」(非主體的な認識更新)という心的態度の表明により暗示されるニュアンスである。

6. 終助詞「-ジャ」と文末形式「ガジャ／ガヤ」(のだ)の意味上の類似性

以上、富山県砺波方言の終助詞「-ジャ」の意味について述べた。以下では、関連事項として、砺波方言における終助詞「-ジャ」と文末形式「ガジャ／ガヤ」(のだ)との間の意味上の類似性について述べる。

文末形式「ガジャ／ガヤ」は、基本的には共通語の「のだ」と同じく、「あることがらの背後の事情」(田野村1990)を述べるための形式である。例えば、

(53) ホンマ ユータラ、アンマ ノンビリ シトレンガジャガ (シトレンガヤガ)、...

(本当言うと、あまりのんびりしてられないんだが)

では、現状の背後にある実情を述べるために「ガジャ／ガヤ」が用いられている。

しかし、この「ガジャ／ガヤ」が、判定詞の削除や終助詞の付加などをともなわずに、まさに「..ガジャ。／..ガヤ。」という形で用いられた場合(以下「ガジャ。／ガヤ。」)は、

(54) 現場の状況あるいは聞き手の発言により、話し手の意志とは別に、その場で自然と実情に関する話し手の理解が更新された。(実情理解の非主體的更新)

という解釈しかできない。つまり、砺波方言においては、「ガジャ。／ガヤ。」が「ガジャ／ガヤ」(のだ)の諸用法のうち「実情理解の非主體的更新」という形でまとめられる用法しかカバーせず⁵、かつ、この「実情理解の非主體的更新」という意味と、終助詞「-ジャ」が表す「非主體的な認識更新」という意味との間には、「話し手のコントロールをはなれた知識の更新」という同一の指向性が認められるということである⁶。

具体的には、「ガジャ。／ガヤ。」が自然に使えるのは次の二つの場合である。

1) 現場の状況あるいは聞き手の発言により、それまで理解されていなかった実情が自然と理解・納得された場合。(共通語で若い世代が「あ、そうなんだ」のような言い方で納得の気持ちを表すのに相当するが、砺波方言では老年層も「ガジャ。／ガヤ。」を納得の意味で用いる。)

(55) (探していたものを見つけて「なあんだ」という気持ちで)
コンナトコニ アッタガジャ！ (アッタガヤ！)。(こんなところにあつたんだ。)

(56) チューコトハ、井上サン マダ コノコト 知ランガジャ！ (知ランガヤ！)。
(ということは、井上さんはまだこのことを知らないんだ。)

(57) 甲：オラ 井上サンチャ マダ オータコト ナイガイ。
(私、井上さんにはまだ会ったことないんだ。)

乙：ア、ソンナガジャ！ (ソンナガヤ！)。オータコト ナイガジャ！ (ナイガヤ！)。
(あ、そうなんだ。会ったことないんだ。)

2) 現場の状況あるいは聞き手の発言により、話し手の意志とは別に、話し手にとってわかりきった(とりたてて意識していなかった)実情をあらためて意識せざるをえなくなった場合。(共通語でいえば、「こんな当然のことがなぜ理解できていないのか」という気持ちで「のだ」を用いる場合がこれにあたる。(田野村1990:48-49も参照のこと))

(58) (「なんであれをすてた？」と聞かれ)
ナン ユートルガ。アンタガ ステ ユータガジャ！ (ユータガヤ！)。
(何言ってるの。あなたがすてると言ったんだ。)

(59) (適当に聞き流せばいいことを聞き流せない聞き手を見て、じれったそうに)
アンナモン、ハイハイ ユーテ キートリヤ イーガジャ！ (イーガヤ！)。
(あんなのは「はいはい」といって聞いてればいいんだ。)

(60) (「それ、ほめてるの？ けなしてるの？」と聞かれ)
モチロン ホメトルガジャ！ (ホメトルガヤ！)。
(もちろん、ほめてるんだ。(こんな当然のことがどうしてわからないの?))

この二つのケースはいずれも、「現場の状況あるいは聞き手の発言により、(話し手の意志とは別に)自然と実情に関する話し手の理解が更新された」という線ととらえることができるものである。そして、これ以外の場合、例えば既知の実情を告白するだけで、話し手の中で実情の理解の更新がおこっていない場合は、「ガジャ。／ガヤ。」は使いにくい。

(61) 甲：ちょっと寄ってかない？
チョッコ 寄ッテカンケ？

乙：(「それが申し訳ないんだけど、実は」という口調で)
それが(実は)今日は寄ってられないんだ。

??ソング、今日 ナン ヨットレンガジャ！ (??ヨットレンガヤ！)。

この場合、判定詞の削除(男性の場合はそれに終助詞「イ」を付加)、終助詞の付加、あるいは丁寧語化によって、「ガジャ。／ガヤ。」という形でなくすことが必要である。

(62) (「それが申し訳ないんだけど、実は」という口調で)
a. ソング、今日 ナン ヨットレンガ。[女性語、判定詞削除]
(それが、今日は寄ってられないの。)

- b. ソンガ, 今日 ナン ヨットレンガイ↓。[男性語, 判定詞削除+「イ」付加]
 (それが, 今日は寄ってられないんだよ↓。)
- c. ソンガ, 今日 ナン ヨットレンガヤチャ↓。[終助詞付加]
 (それが, 今日は寄ってられないんだよ↓。)
- d. ソンガ, 今日 ナン ヨットレンガデス↓。[丁寧語化]
 (それが, 今日は寄ってられないんです↓。)

なぜ「ガジャ。／ガヤ。」の用法が「実情理解の非主体的更新」という方向に傾くのかはよくわからない。また、終助詞「-ジャ」（非主体的な認識更新）と「ガジャ。／ガヤ。」（実情理解の非主体的更新）が「話し手のコントロールをはなれた知識の更新」という意味的な指向性を共有することが何を意味するかについても、くわしいことはわからない。（藤原1996は、全国の「-ジャ」という形の終助詞の由来として、「では」と判定詞「ジャ」の二つの可能性をあげている。しかし、「-ジャ」と「ガジャ。／ガヤ。」の意味的な類似自体は、必ずしも砺波方言の「-ジャ」が判定詞「ジャ」に由来することを示すものとはいえない。）

ただ、「ガジャ。／ガヤ。」の用法が「実情理解の非主体的更新」という方向に傾くという現象をひきおこすのと同じ力（いわば文末形式の意味を体系化する際の指向性）が終助詞「-ジャ」の意味の形成にも関与しているということはあるかもしれない。もしそうだとしたら、砺波方言の「-ジャ」の意味・用法の幅が、同じ由来をもつと考えられる他方言の「-ジャ」と異なるとしても、それは「同じ由来をもつ文末形式であっても、意味を体系化する際の指向性が異なれば、付与される意味・用法も異なる」ということである可能性がある。今後、各地方言の終助詞「-ジャ」の意味・用法の比較対照が必要である。

注

- 筆者の言語経歴は以下のとおり。

1962年 富山県東砺波郡井波町生まれ（父は1934年婦負郡八尾町生まれ。母は1935年東砺波郡福野町生まれ。1960年より井波に在住）

0歳～18歳	井波町（高校は砺波市に通学）	18歳～23歳	仙台市
23歳～27歳	東京都杉並区・目黒区	27歳～現在	千葉市美浜区
- 筆者の内省では、判定詞「ジャ／ヤ」に終助詞「-ジャ」がつく場合は「ヤ-ジャ」となり、「ジャ-ジャ」とはならない。ただし、小西いずみ氏（東京都立大学大学院）によれば、東砺波郡城端町では「ジャ-ジャ」という形が観察されたという。おそらく、「ジャ-ジャ」という形自体は非文法的というわけではなく、不自然に感じられるのも音声的な要因によるものであろう。
- 共通語の「や」も、観察や考察の結果pという感触を得た場合には使えるが、観察なしにpという信念を述べるだけの場合には使えない。
 - ・（「イカのスキの入った塩辛なんてうまいの？」と聞かれて）
 そりゃ、うまいよ↓。 (うまいに決まってるじゃないか。)
 - ??そりゃ、うまいや↓。 / ??ソリヤ、ンマイジャ↓
 - ・（イカスキの入った塩辛を一口食べて「なかなかうまい」と思った）

あ、けっこうまいよ！。

あ、けっこうまいや！。／ア、ケッコー ンマイジャ！

- 4 田野村(1990)のいう第一類の否定疑問文(名詞-ではないか、動詞・形容詞-ではないか)は、砺波方言では「名詞-ヤ-ナイケ(ナイカ)、動詞・形容詞-ナイケ(ナイカ)」となる。

よく見たら、休みじゃないか。／ヨー 見タラ、休ミヤナイケ(休ミヤナイカ)。

なんだ、いるじゃないか。／ナンヤ、オルナイケ(オルナイカ)。

また、推定を表す「名詞-ではないか、動詞・形容詞-の-ではないか」(田野村1990のいう第二類の否定疑問文)は、砺波方言では「名詞-デナイケ(デナイカ)、動詞・形容詞-ガ-デナイケ(デナイカ)」となる。「デナイ」は「ンナイ」となることもある。

ひょっとして、休みじゃないか?／ヒョットシテ、休ミデナイケ(休ミデナイカ)?

ひょっとして、いるんじゃないか?／ヒョットシテ、オルガデナイケ(オルガデナイカ)?

- 5 共通語でも「のだ」の女性語形「の」は「のだ」の用法の一部しかカバーしない。

今日は行かない。忙しいんだ／忙しいの。[実情告白]

そうだ、今日は 会議があつたんだ／??会議があつたの。[実情想起]

あの人、来ないね。きっと忙しいんだ／??きっと忙しいの。[実情解釈]

(野田1993の例文を一部変更)

- 6 これは「-ジャ」と「ガジャ。／ガヤ。」が同義だということではない。実際、「-ジャ」自体は「のだ」に相当する意味は含まない。例えば、次の例では、共通語でも砺波方言でも「のだ」「ガジャ。／ガヤ。」の使用が義務的であり、「-ジャ」では不自然である。

(「井上という人には会ったことがない」と言われて)

a. ア、アンタ オータコト ナイガジャ。(あ、あなた、会ったことがないんだ。)

b. ??ア、アンタ オータコト ナイ-ジャ。(??あ、あなた、あつたことがないや!。)

bが自然なのは、話し手が記憶をたどってみた結果自然と「あなたは井上に会ったことがない」という結論が意識にのぼった場合である。

(「井上という人には会ったことがない」と答えられて、少し考えたところ、聞き手が井上に会ったことがないことを思い出した)

ア、ソーイヤ、アンタ オータコト ナイ-ジャ。

(あ、そういえば、あなた、あつたことないや!。)

引用文献

- 井上 優 (1995a) 「富山県砺波方言の終助詞「ゼ」の意味分析」『言語学論集』4, 11-21, 東北大学文学部言語学研究室
- (1995b) 「富山県砺波方言の「命令形+カ」」『日本語研究』15, 155-164, 東京都立大学国語学研究室
- (1995c) 「方言終助詞の意味分析—富山県砺波方言の「ヤ／マ」「チャ／ワ」—」『研究報告集』16, 161-184, 国立国語研究所
- 田野村 忠温 (1990) 『現代日本語の文法Ⅰ—「のだ」の意味と用法—』和泉書院
- 野田 春美 (1993) 「「のだ」と終助詞「の」の境界をめぐって」『日本語学』12-10, 明治書院
- 益岡 隆志・田窪 行則 (1992) 『基礎日本語文法(改訂版)』くろしお出版
- 藤原 与一 (1996) 『日本語方言辞書—昭和・平成の生活語—(中巻)』東京堂出版

付 記

本稿は、日本方言研究会第66回研究発表会（1998年5月29日、白百合女子大学）でおこなった口頭発表の内容に修正をほどこしたものである。また、本稿の内容の一部は、国立国語研究所日本語教育センター第一研究室の1994,1995年度一般研究「日本語の対照言語学的研究：日本語方言のモダリティに関する記述的研究」でおこなった研究の成果の一部である。

〔投稿受理日：1998年7月14日〕

井上 優（いのうえ まさる）

国立国語研究所日本語教育センター第4研究室

115-8620 東京都北区西が丘3-9-14

mainoue@kokken.go.jp